

湛水直播管理情報 (第1号)

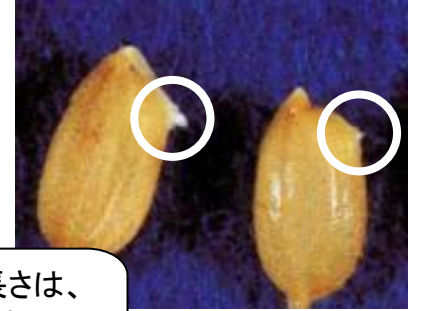
～ 湛水土中直播(カルパー) ～

令和2年4月10日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 種子の準備

- 種籾は乾籾で2.5～3.0kg/10a準備してください。
- 発芽・苗立ち向上のため、比重選・種子消毒(モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬)は確実にいきましょう。
- 浸種は水温10℃以上15℃以下を保ち、積算温度100℃程度を確保し、しっかり浸種してください。なお、発芽率を高めるために、浸種初日は水温12℃を確保してください。
浸種完了の目安(必ず確認!)：「種子籾の胚乳がアメ色で透明になった頃」
- 催芽は、ハトムネから1mm程度の芽の長さに揃えてください(右写真参照)。

※予定より早く催芽した場合は、水から上げてムシロに広げ、陰干しをしておき、コーティング作業の4～5時間前に再び水に漬けてコーティングに備えてください。



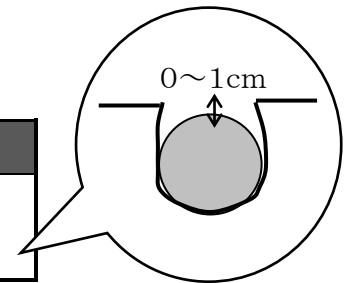
芽の長さは、ハトムネから1mm程度

写真 カルパーコーティングに適した催芽の状態

2. 圃場の準備

- 水を少なめに行い、稲わらや雑草をしっかりすき込みましょう。
- 練りすぎに注意し、播種時期に適正な硬さになるように仕上げましょう(下表参照)。

土壌区分	時期	播種時の土の硬さの目安
砂壤土	播種2～3日前	1mの高さから落としたゴルフボールが、0～1cm程度沈み込む状態。
粘質土	播種4～5日前	



3. コーティング作業

- 均一にコーティングするため、催芽籾は十分に水切りしてください。
- カルパー粉粒剤16は乾籾の等倍～2倍量程度を粉衣し、タチガレエースM粉剤を乾籾重量の3%(乾籾3kg当たり90g)加えてください。
- コーティング後は2～3時間陰干ししてください。なお、乾き過ぎないように注意しましょう。
- コーティングした籾は早めに播種してください。

4. 出芽促進処理

カルパー粉衣種子を加熱することにより、出芽の促進や揃いをよくすることができます!

『育苗器を使った加熱処理』(㊦)することにより、出芽が早くなり苗立ちが揃います。

また、コーティング後播種まで日数がある場合は、『保冷庫を活用した定温処理』(㊩)がオススメです。

出芽促進処理の方法

①カルパー粉衣の4時間後に網袋等に詰める

㊦育苗器を使う

㊩保冷庫を使う

②粉衣籾の加熱処理(30℃×24時間)

- ・網袋を薄く広げて加熱
- ・30℃×24時間を超えると芽や根が伸長し、播種作業に支障をきたすので注意!

②粉衣籾の定温処理(15℃×3～5日)

- ・厚手のビニール袋で包み、水分低下を防ぐ
- ・15℃を超すと芽や根が伸長し、播種作業に支障をきたすので、温度設定に注意!

加熱処理中、随時籾を確認し、芽が伸びすぎないように注意する!

③処理後は速やかに播種する

(籾がぬれている場合は、1時間程度天日干した後に播種する)

5. 基肥量の目安(コシヒカリ)

○圃場条件に応じて、適正量を施用しましょう。

表 施肥の目安

土壌区分	肥料名	施用量
砂壤土	LPss 直播コシヒカリ (21-14-14)	30～32kg/10a
壤土・黒ボク		25～28kg/10a
粘質土		23～26kg/10a

施用量が多いと、倒伏の原因となります。大豆や地力増進作物あとは2～3割減肥しましょう。

6. 播種

- (1) 播種作業の際は、種子や肥料が落下しているか、確実に覆土がされているか、随時確認しましょう。
- (2) 吐出口をこまめに掃除し、詰まりを防ぎましょう。

播種適期	4月25日～5月10日
播種量	乾籾で2.5～3.0kg/10a
播種深度	5～10mm

適正な播種作業により、
目標苗立ち本数 60～80 本/m²
(m当たり 18～24 本) を確保!



7. 播種後の水管理

- (1) 播種後速やかに5～10m間隔で排水溝を掘り、落水を促しましょう。
- (2) 播種後の田干しは「足が沈まない程度(右写真参照)まで(期間は5～7日程度)としましょう。
- (3) 出芽後は水深3cm程度の浅水管理をし、分けつの発生を促しましょう。
- (4) 田干し期間中に激しい雨(籾が洗い出されるおそれがある場合)や霜が予想される場合は、事前に入水しましょう。

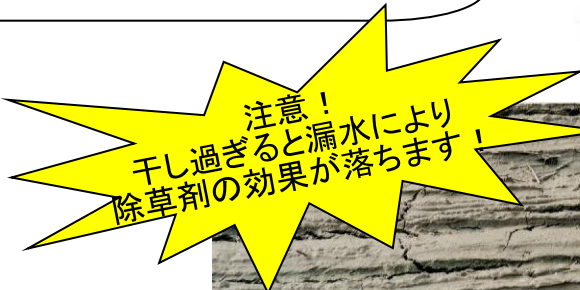


写真 適度な田干し状況

8. 鳥害対策

- (1) できるだけカラスの飛来が少ない圃場を選定しましょう。
- (2) スズメの食害は2葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに湛水してください。
- (3) カモの食害は3葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに落水してください。
- (4) 鳥害が予想される場合は、圃場に水系を張るなど、予防対策を行いましょ。

9. 除草剤散布

- (1) 除草剤の散布は、出芽後入水し、湛水が落ち着くなど湛水状態が安定してから散布してください。
- (2) 圃場条件等に応じて、除草体系を選びましょう(右図参照)。
- (3) 散布後5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は『止水管理』(「落水」や「かけ流し」をしない)を行いましょ。



種子の出芽は雑草発生との競争!
代かき～雑草発生初めまでの目安は、
ノビエ・ホタルイで8日程度です。
散布が遅れないように注意しましょ!

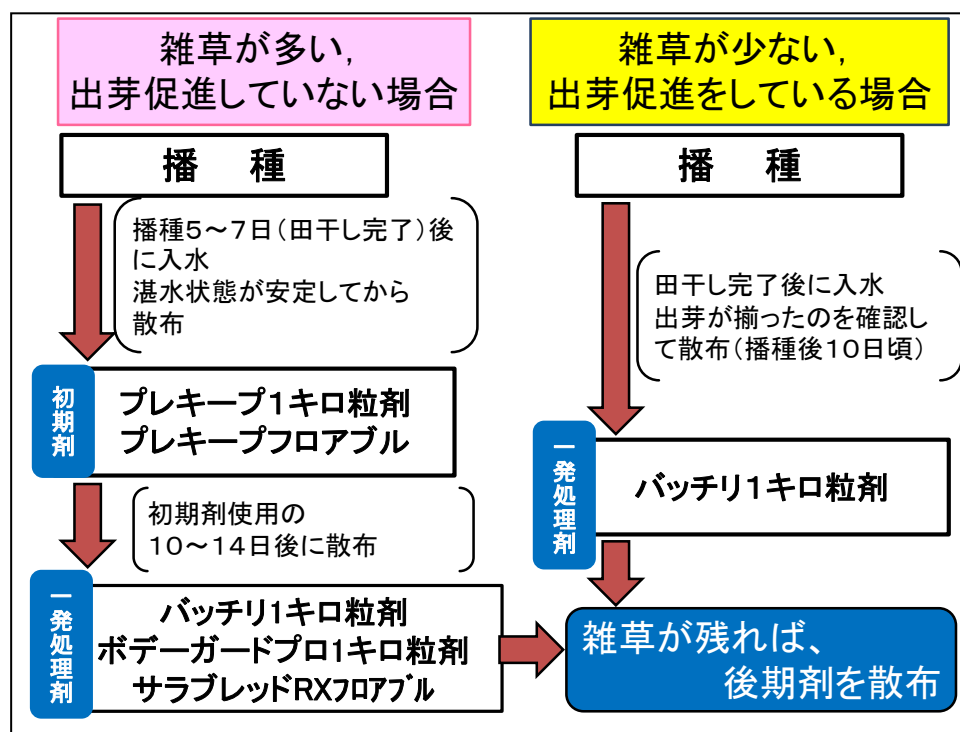


図 条件別除草体系

表 除草剤一覧

除草剤名		使用時期	使用適期	使用量	使用方法	使用回数
初期剤	プレキープ1キロ粒剤	播種直後～ノビエ1葉期 (ただし収穫90日前まで) (出芽していなくても散布可能)	播種後 5～7日	1kg/10a	湛水散布	1回
	プレキープフロアブル			500mL/10a		
一発処理剤	バッチリ1キロ粒剤	イネ出芽揃期～ノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで) ※イネ出芽揃期とは、緑色の不完全葉が 1m間に14～16本確認できる状態	出芽揃期 (播種後10日頃) または 初期剤使用 10～14日後頃	1kg/10a	湛水散布	1回
	ポデーガードプロ1キロ粒剤	播種直後～ノビエ3.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)	初期剤使用 10～14日後頃	1kg/10a		
	サラブレッドRXフロアブル	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)		500mL/10a		

【ノビエの発生が早く極めて多い場合】

初期剤を施用してもヒエの発生が多い場合は、**クリンチャー1キロ粒剤**(播種後10日から使用可能)を散布しましょ。